

MARINE NEWS

マリンニュース

9 1995



SRVニュース Vol.5 Hello! SRVショップ!

**発売以前のPR効果がモノを言う、
SRVのピークはこれから。**

夏から秋へ、さらに来シーズンへ。

SRVオーナーだけのクルージングイベント、横浜で開催

連載●浜を訪ねて/サービスマン人物図鑑/マリンショップ見聞録

スタイルを崩すことなくワンクラス上の居住性を実現。
あらゆるニーズに応えるファミリーフィッシングボート

FC-24



24ftクラスとは思えないワイドなキャビン。ウインドも広めで全体的に明るい
雰囲気が入っている



トランサムに設けられたハッチを開けると、右舷側にバッテリーと燃料タンク、左舷側に物入れが現れる。田辺さんは、船外機仕様や電装品を考慮してバッテリーをツイン装備にした



フィッシングを意図した広いアフトデッキ。テーブルを囲んで宴会という段にも威力を発揮する

フィッシングはもちろん、夏休みには家族でファミリークルージングも楽しみたい。そんなキャビンクルーザーならではの遊び方を24フィートという限られたサイズで実現したのがFC-24だ。
小型艇ながらメインキャビン内で大人が十分に立てるヘッドクリアランスを確保し、独立トイレルームやパウキャビンも装備。もちろんフィッシングニーズに配慮べく、アフトデッキはワイドでフラットな処理がなされている。そんな魅力がどこまでポートファンの購買意欲を誘うか、発表と同時にオーダーを決めたオーナーさんに直接お話を聞いてみた。

雨宿りできるキャビンが欲しい

利根川をはさんで千葉県と向かい合う茨城県潮来町は、いわゆる水郷地帯と呼ばれ、昔から船とは縁が深い。水路を下れば銚子から外海へ出れるし、逆に北上

●オーナープロフィール
田辺孝一さん(55歳)



キャビン内でステアリングを握り、ご満悦の田辺さん。これまで乗っていたFR-23のようなオープンボートとはちがった、キャビンクルーザーらしい雰囲気を感じている

「田辺さんは3日と空けずに来ています」と、田辺さんの艇を預かる「海洋マリナー」さん。帰宅途中などにも愛艇の様子を見に来るほど熱心なオーナーである。
何艇もヤマハ和船を乗り継いできた経験から、「ヤマハのフネは信頼性が高くスタイルもいい」とFC-24にも絶大な信頼を寄せている。

「子供は東京に行ってしまったから、今は家内だけ」というものの、その奥様は船酔いをしたことがない頼れる助っ人。主婦仲間や民宿のお客さんを連れて来ることも少なくないが、そんなときは田辺さんの包丁さばきで釣れたての魚が調理されるといふ。FC-24になって、どんな宴会が開かれるのか興味津々である。

すれば日本第2の広さを誇る湖、霞ヶ浦へ舵を取れる。

「この水の街で生まれ育った田辺さん。かつて実家が漁師だったこともあって、すでに16歳のときから和船で投網を投げていた。」

「スズキや黒鯛、ボラなどがよく採れましてね。この辺の人たちは小さいときからフネに慣れているんです」

会社勤めをはじめた田辺さんだったが、フネが恋しくてたまらず、20年前にヤマハ和船を入手。少年の頃のように網を投げはじめた。

「これまでに6〜7艇、和船を乗り換えてきましたが、すべてヤマハ製。ヤマハは和船なりにもスタイルがいいでしょう」と和船を通じて、すっかりヤマハびいきになった田辺さん。10年ほど前からプレジャーボートにも興味を持つようになり、和船と並行してSTR-21、FR-23などを乗り継いできた。

「1人ときは和船で網を投げ、人が集まるとボートを出します。家内が民宿をやっているので、お客さんを釣りに連れて行き、その後でシジミ採りなどをすれば本当に喜ばれます」

二刀流で楽しむ何とも羨ましいポートライフだが、数年間FR-23に乗った後で買換えを考えた。

「雨に降られたとき、パウキャビンしかないFR-23では狭い思いをしました。みんなが乗っているとき、十分に雨宿りできるキャビンが欲しいと痛感したんです。それに、オープンボートは普段、オーニングをかける必要があつて面倒でしょう」

カタログを見て即決

みんながキャビンで休めるポートが欲しい、そんな思いを募らせていたときFC-24が登場した。

「FC-24はサイズの割りにキャビンが広く、しかもウインドウの視界がよくて室



CONTENTS

- SRVニュース.....4
そろそろアフターフォローを
SRVオーナーだけのクルージングイベント、
横浜で開催/和野野ボート
(Hello! SRVショップ)
<ろしお(宮城県塩釜市)>
<SRVインフォメーション>
- 浜を訪ねて.....10
深瀬鉄工(北海道奥尻)
- 当世サービスマン人物図鑑.....12
小松島マリーナ(徳島県小松島市)
- YAMAHA NOW.....14
イベント、グッズ、他ヤマハ情報
- マリンショップ見聞録.....18
ニューポート江戸川(東京都江戸川区)
- HOT EYE.....20
関西最大のビルフィッシュトーナメント/
勝浦ビルフィッシュトーナメント

THIS is IT!



バウには余裕のキャビンを用意。最初、天井が低いと感じたそうだが、立っている場所ではないので今では特に気にならないという。インナーハル採用のため、波の衝撃音が少ないことがお気に入りだ



キャビン内、ヘルムステーション脇に設けられたシートの下には釣り竿も入る物入れが設置されている



※この写真はオーナー艇ではありません

小さいながら独立したトイレスペースを確保。和船やFR-23にはなかった装備に大満足だという



FC-24O/B ●全長:7.87m(バウスプリット含む) ●全幅:2.41m ●吃水:1.25m ●船体重量:1,080kg
●最大搭載馬力:140HP ●燃料タンク:165ℓ ●定員:10名 ●航行区域:限定沿海

FC-24S/D ●全長:7.87m(バウスプリット含む) ●全幅:2.41m ●吃水:1.25m ●船体重量(完成重量):1,140kg(1,627kg) ●最大搭載馬力:130HP ●燃料タンク:165ℓ ●定員:8名 ●航行区域:限定沿海

内が明るいです。一通りの装備があつて、シートの下に設けた物入れも使い勝手がいい。カタログを見て即決しました」

長時間、外洋を走ることはないので、大型艇は特に必要ない田辺さんにとって、小型ながらしっかりしたキャビンが付いたFR-24はまさにうってつけのボートだった。

田辺さんがオプションで追加装備したものとえば、電動マリントイレとコンパス、それにGPSぐらいのもの。小型艇ながら必要な装備が整っている点は、自然に購買意欲を増してくる。また、田辺さんの場合は波の静かな水郷地帯を走ることが多いので船外機仕様を選んだが、ディーゼルインアウトが用意されているのも大きな魅力である。

「進水にあわせて機装している最中、見学にきた人が大勢いました。マリーナの話では、私の艇がきっかけになって近々新たに同型艇が進水するそうです」

今後は愛艇に泊まることもできると張り切っていた田辺さん。和船とプレジャーボートという2つのアイテムを使い分け、存分にボートライフをエンジョイすることだろう。

夏から秋へ、さらには来シーズンへ。 SRVはまだまだ伸びる。



**SRV絶好調。
3カ月で
16隻を
販売した**

平野ボートの

(神奈川県横浜市)

戦略とは

市場にSRVが浸透しつつある現在、そろそろ「SRVをどのように売るかという」テーマと同様に、「SRVをいかに定着させるか」について考える時期にきているといえるだろう。6月のある日、神奈川県横浜市のマリンプラザ街平野ボートさんからSRVのオーナーだけを集めて簡単なクルージングをするので遊びに来ないか」とのお誘いをいただいた。聞けばSRVの発売以来、同社では順調に販売実績を伸ばし、SRVオーナーだけでのイベントを行うことになったという。さっそくその現場におじゃまし、このイベントに対する同社の考え方と、参加したお客様たちの声を伺ってきた。



Vol.5 ニュース

日曜日、近くの島まで合同クルージング そのねらいと効果は

今回、平野ボートが企画したイベントは、SRVのオーナーだけを集め、目の前に浮かぶ無人島・猿島までのショート・クルーズを行うというもの。

電話やプリントを使って一人一人のお客様をお誘いし、7組のSRVユーザーから「参加する」との回答を受けたという。最終的には5隻のSRVがクルージングに参加した。

このイベントを立案したのは同社のセールスマン、油谷真人さん。

「せっかくボートを手に入れたのだから、マリナライフを楽しむ機会をマリナとしても提供したかった」

こともあるが「SRVのお客様は初心者が多いので、スタッフが同行するこうしたイベントを通じて、シ-

マンシップを修得してもらい、少しでもボートに慣れ親しんでもらう」という目的がメインだった。

また同社の柳田雅道部長も同様に「SRVのお客様はほとんどが初心者。砂浜でキャンプをしなくてもアンカーの打ち方を知らなかったり、基本的な操船についても教えてあげ必要がある」としている。

こうした目的だったので当初は「こじんまりと」行う予定であったが、話題のSRV、しかもそのオーナーだけを対象にしたクルージングということで、本誌ばかりでなく、テレビ番組「ON&OFF」でも取り上げることになった(8月19日放映予定)。

イベントは朝9時30分集合、簡単なミーティングの後、10時にマリナを出発。5隻のSRVのうち、特に操船に不慣れな2隻のSRVにそれぞれ平野ボートのスタッフが乗り込んだ。猿島までは30分ほどで到着。沖にアンカリングして釣りやおしゃべりを楽しみ、上陸。記念撮影の後、再び出発、迂回して八景島を海からのんびりとながめつつ、帰路についた。所要時間は3時間。マリナ到着後には、ボートヤードでバーベキューを楽しんだ。

クルージングそのものも有意義であったが、バーベキューパーティー

もお客様はなかなか楽しめたようだ。初めて会うオーナー同士、特に同じボートのオーナーと言うこともあって話も弾む。

「こんなルアーで魚が釣れんのかい」「ええ。この1カ月で友達と会わせて100本ぐらい釣りましたよ」「ほんとに? 今度つれてってよ」親子ほど年の離れたオーナー同士がこんな会話で盛り上がっているの

4人の参加者たち—それぞれのSRVライフ

とってもカッコいいボートですね

●小林 達子さん(55歳)



今回の参加者の中では唯一の女性オーナー。一人娘の結婚式でハワイに行つたとき、あちから乗つたすてきなボートに雲田さんが似ていたんです。それでSRVに決めました。すぐにお洒落ですよね、このボート」

すでに6歳と5歳のお孫さんがいらつしやるそうだが、「こどもの頃から海が好きで、いつかはボートが欲しいと思っていました。55歳になつてGO/GO/だから(笑い)、また今しかないと思つて、思い切つて購入しました」

ご主人はもつぱら車が好きで、海にはあまり興味がないようだ小林さんは言う。「自身はお仕事を持ち、このSRVも自分の自由になる予算で購入した。

を見ると、本来の目的以上の成果があったとみてもよいのではないかと。また機装のこと、フィッシングポイントのこと、あちこちで会話が弾んでいた。

なお、今回のイベントは参加費用は無料。バーベキューのみ実費。(一人¥2000)をいただいたそう。また取材用ボートとして1隻、スタッフは3名が同行している。

「最初にボート免許を取ろうと思いい、スクールを探したのですが、国家試験の会場でもあつたので、ここ(平野ボート)に決めました。その後すぐにSRVが発売され、お店の前に展示してあるボートを見てかつこいいな、と思つて…」

今回のイベントまでに小林さんは2回ほどSRVで遊んでいるが、「スピード感が何ともいえない」そう。今度、カラオケセットでも取り付けてみんなで楽しめたらおもしろいですね」

また今回のイベントで他のボートのオーナーを見て、「私もつけた方がいいかしら」とサービスマンに相談されていた。



釣りに対しては 最高のポイントです

小川 達雄さん(47歳)
小川 俊男さん(42歳)

釣りの大好きな兄弟。オーナーの達夫さんは運送会社の役員。かなり前から兄弟で釣りを楽しんできてきたが、「手ごぎボートに5馬力を載せていた程度」。そして「SRVは広くていいね。十分に釣りが楽しめる。最高ですよ」とべた褒めだ。お二人のSRVは参加艇の中でも特に機装が光っていた。

竿受けのマウントが4基、円筒形のホルダーが前後左右4カ所に。それぞれロッドとタモ、ボートフックがセットしてあった。また各所にハンドグリップ。航海灯は特注の可倒式。極めつけは、テーブル。平野ボートのサービスマン、越中谷課長のオリジナルで、テーブルの部分にはドリンクホルダーがセットされている。

また、折り畳み式の椅子を積んで



参加。環島でアンカリングした際、さつそくそれを広げてのんびりと釣り糸をたらしていた。SRVを大いにエンジョイされている様子がかがえる。

シーバスの記録を狙います

井手 研一さん(26歳)
写真・右

今回の参加者の中ではもつとも若いオーナーで、お仕事はスイミングスクールのインストラクター。

「前はジェットに乗っていてレースによく参加していました。でもジェットだと上げ下ろしだとか仲間が常にないと楽しめない。それに比べ

るとボートの方がかえって気楽に遊べるんですよ」

ただし、井手さんの場合、「ここも頃から釣りが好き」で、SRVの購入はジェットからの代替えというパターンには当てはまらない。今はルアーでのススキ釣りに夢中。

「購入してから1カ月。毎週、金土日の夜から朝まで釣ってます。おかげで寝不足ですよ。ほとんどタックルはセミライトで釣っていますが、ほんとにおもしろいですよ。今度一緒に行きましょつよ」

JGFAにも入会し、記録をねら



う。また11月に行われる予定のシーバスターナメントにも参加してみたいと意欲的だ。

井手さんは当初中古のボートを探して、いいのがあつたらと平野

ボートに頼んでいたそうだが、その矢先にSRVが発売され、結局新艇に決めたそうだ。

「最初は和船でもいいと思っていましたが、機装はともシンプル。しかし、「ロッドホルダーやランチャーをつけたり、アメリカのフィッシングボートのような雰囲気はいいにしていきたい」とこれからの楽しみも口にしてた。

あちこちの雑誌で見かけて決めました

望月 康久さん(34歳)
写真・中央

「1週間前に進水式を終えたばかりなんですよ」という望月さんは電機工事を自営。釣りが目的でSRVを購入した。

「釣りの雑誌を見ると最近SRVがよく登場してくるんですよ。それで気になって、ついに購入を決めました」

海ではもつばら堤防から釣りをしていたという望月さんだが、「場所が限られますし、最近はどこにいつて

もものすごい人の数で、場所の取り合いが起こるほどなんです。これからはマイ・ボートで好きな場所で静かに存分釣りができますね」と、期待している。



「芦ノ湖(神奈川県)でボートを借りてフラウトフラウトを以前から釣っていたのでボート免許は持っていたんです。平野ボートで取ったので、こちらで購入することにしました」と望月さんもSRVを知る以前に平野ボートとの接点を持っていた。

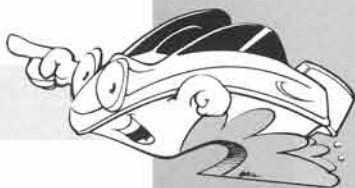


独自の機装による SRV横浜バージョンが人気

今回の合同クルージングを企画した平野ボートでは、発売以来、SRVが売れに売れている。今回の取材のためにおうかがいした7月9日

の時点で、販売されたSRVは16隻。さらにショールーム前にはフル機装のSRVが展示され、また、在庫も3隻確保されていた。もちろん、今

後さらに販売されていくとの予想の元にある。SRVの発売以来、同社では展示会・試乗会の開催や、専門誌への広



同社のサービスマン部門の責任者、越中谷政春課長は、「このボートにこれだけの機装をしたけど、ずいぶん安くしたからねえ。これは赤字だよ」とお客様を目の前にして冗談を飛ばしていたが、お話を伺っていると、オーナーの指向や遊び方を十分に知った上で、何が必要で何が不要かを明確に判断していることが窺えた。

また、例えばコンパスひとつとっても、それぞれのメーカーの短所、長所を言い当て、SRVには何が適しているかなど、ズバズバと説明してくださった。お客様にとってはきぞ頼もしい存在だろう。

今回のイベントに参加されたお客様のお話をお聞きしていると、同社がなぜ今好調なのか、おぼろげながら見えてくる。イベントとお客様の個々の声は前のコーナーでご紹介したが、特に気づいたことは、多くの新規のお客様がSRVを知る以前に、何らかの形で平野ボートを知っていた、または接点があった、という点である。

確かにSRVは多くのマスメディアで取り上げられ、その結果潜在需

要を掘り起こし、多くのオーナー予備群の購買意欲をかき立てた。さて、「SRVのことは分かった。ぜひ欲しい」となったとき、次にお客様が考えるのは「どこで買おうか（またはカタログをもらうか）」ということであろう。

平野ボートの場合、SRV発売以前から「底辺拡大を意識し、小型ボートの拡販に取り組んできた」という実績がある。免許教室を積極的にを行い、国家試験もマリーナで行って

いる。それに加え、大規模な展示会やその告知、専門誌への広告出稿、など先行投資を行っている。つまり、後はいよいよ商品、話題性のある商品がメーカーが作りさえすれば、売れる環境を作り上げていたとも言えるのである。

SRVビジネスはまだスタートしたばかり。この分で行くと、来季も引き続きSRVフィーバーは続き、潜在需要層に対して大いにアピールしそうだ。それを考えたとき、この夏から、秋へ、さらに冬へ、拡販のために何をすべきかが自ずと見えてきそうだ。

発売以前の日常作業が勝負 新規客がSRVの次に選んだのが『平野』



クルージング出発前、ヨコハママリーナの桟橋に勢揃いしたSRV



ヨコハママリーナのボートヤードラック式の保管施設にあるボートを見る。同社がいかに中小型ボートの拡販に力を入れてきたか窺える



今回の参加者、小川オーナーのボートに積み込まれていた、サービス課で製作したテーブル兼物入れ



折り畳み式の椅子を持ち込んで、のんびりと釣りを楽しむ小川さん。とてもSRVにマッチしていた



今回の猿島クルージングを立案した営業部の油谷さん

告出稿など、いわば定石ともいえる方法でSRVの拡販を図ってきた。また、自社で陸置き型のマリーナ（ヨコハママリーナ）を経営している強

みを生かして、保管料の特別料金の設定も行っている。「その他なにか特別な販促は？」という問いに、同社の柳田雅道部長は「独自の機装をセッとしたSRVのヨコハマバージョンを設定したんですよ」と即答してくれた。

以前、本誌の「マリンショップ見聞録」の取材（95、2-3月号）で伺った際、柳田部長は用品ビジネスについて「本体と同様、用品につい

てもプロショップとして信頼性のあるものなるべく低価格で提供したい」と語っている。その考え方の延長として「SRV横浜バージョン」が生まれたわけで、純正オプションや用品に加え、独自の仕入れ、またある時は自社で製作することにより、より付加価値の高いSRVを販売してきたのだ。

見事な機装で仕上げられたあるお客様のSRVについて説明してくれ

Hello! SRVショッブ

鈴木社長。三陸沖のビッグゲームフィッシングを確立した第一人者。今夏、30名規模のスポーツフィッシングクラブを本格的に組織化する。「釣るばかりでなく稚魚の放流事業などにも積極的に参加したい」という。「SRVなど小型ボートオーナーの参加も積極的に募りたい」とも



SRV拡販のピークは暑くなるこれから。

今から9月までもう一押しして新規を獲得

宮城県塩釜市

「くろしお」鈴木 博 社長

宮城県塩釜市と七ヶ浜町に事務所を置くマリンスプラザ・くろしおは、三陸沖でのビッグゲームフィッシングを開拓したことで広く知られるが、SRVを核とした底辺拡大にも余念がない。もちろん同社のスポーツフィッシングに関するノウハウを十分に生かしつつ、新たなフィッシングファン層にSRVの魅力をアピールしている。同社の鈴木社長は、SRV人気はまだまだこれからだと、秋に向けた販促を意欲的に企画 중이다。

~~~~~  
オブション&オリジナル機装で  
独自のセット販売を展開

「発表と同時にこれは売れると思いましたが、すぐに5隻を予約しましたが、予想通り、すぐに完売、今は追加で予約を入れ、入荷するのを待っています」

宮城県七ヶ浜町に本店を構え、塩釜市にマリーナと営業拠点をかねたマリナーズ北浜を展開するくろしおの鈴木社長は、発売以来のSRVの動向についてこう語った。7月初旬にお話を伺った時点では、展示艇もなく、困っているという、そんなタイミングの時だった。

SRV好調の理由について、鈴木社長はさまざまな分析をしてくれたが、「なんとといってもスタイリングでしょう。価格だけでなく、他社からも安い船が出ていますから。今は安い

~~~~~  
だけではダメ。同じ価格でも、割安感を与えられないと。その点SRVは、特にスタイリングという点で時流にマッチしていました」

発売後、同社では真っ先に、展示試乗会を企画、新聞広告で動員を図ったが、詰めの段階でもっとも効果のあった販促は、独自の機装によるセット価格の打ち出しだった。

「ヤマハの純正オプションはもちろんですが、それ以外にも、魚探や自社製の航海灯などなるべく安く仕入れられる用品などをセットにして185万円という価格設定で打ち出しました。その辺でさらに割安感を与えられたらどうと思います」

さらに、SRVは思わぬ効果をもたらしてくれたという。

「いままでもボートフィッシングをさされてきているお客様には、今一つSRVは売りづらかった。けれどSRVのおかげで代替えへの意欲をかき

~~~~~  
立てることができた。つまり、SRVの話題性に引きつけられて来店、結局SRVは買わないけど、他のフィッシングボートや中古艇を買われるというパターンが目立っているんですよ」

~~~~~  
同じフィッシングが目的でも、SRVは新たなスタイル、客層を開拓している

さて、同社が販売した5隻のSRVのオーナーについてお聞きしてみよう。

「ボートは初めて、という方は3名です。その方たちはいずれも釣りの好きな方で、シーバスなどキャストフィッシングに使用されるのが目的のようです。残りの方ですが一人はF122からの代替えで、もう一人はセカンドボートして購入されました」
いづれも使用目的は釣りがメインとなっている。



SRVグッズ

今月の一品



●プラットフォームAss'y
No. 90790-80010/¥32,000
仕様/ベースプラットフォーム
ベースステー (380L)
ベースステー (480L)
取り付け用ボルト、
ナット、ワッシャ
●別売オプション「ラダーComp」
No. 90790-80011/¥20,000(写真)

■このコーナーに関する詳細はヤマハ各販売会社
マリン用品担当までお問い合わせください。

シュノーケリング、ダイビング、スイミング……
SRVからさらに一歩、広がる世界

プラットフォームAss'y

ヤマハオリジナルのプラットフォームはSRVのスタイリングとマッチした流線型のデザイン。別売オプションでラダーやアンカーホルダーを取り付けることも可能です。ステップ面はノンスリップスクエアパターンを採用、耐衝撃・耐荷重・防錆を配慮し、多種用途・アクションに応える高品質ステンレス金具を採用。SRV以外のモデル(FR-15, 17, 21, 24, FC-27, フィッシングメイト21, UF-20, 23, 25, 30)にも対応します。

船体にすっきり取り付けられる フェンダークリッパー

フェンダーを簡単に取り付けることのできるフェンダー用のクリートです。一般のクリートに比べ突起物にならないよう、高さを抑えた作りになっています。材質はブロンズクロームメッキ。



- フェンダークリッパーM
(8~10mm径用)
No. 90794-46266/¥3,200
(2個セット)
- フェンダークリッパーL
(13mm径以下用)
No. 90794-46267/¥5,000
(2個セット)

SRV インフォメーション

応募総数3,313通 モニターキャンペーン終了

東京、名古屋、大阪の各地区で展開していたSRVモニターキャンペーンは盛況のうち終了。3,313通もの応募をいただき、各販売会社ごとに厳正な抽選会を行っています。応募者のプロフィールを見ると、年齢別では30代がもっとも多く、また職業別では会社員が圧倒的多数となっています。当選者の氏名は、9月発行のマリンニュース号外「SRVニュース」に



★ヤマハ東京で行われた東京地区の抽選会で掲載する予定です。ご協力ありがとうございました。

SRVキャッチフレーズコンクール

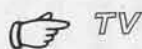
ヤマハのハイブリッド自転車・PASやイワタニプリムス社製のドームテントなどの賞品が当たるSRVキャッチフレーズコンクールを各一般誌紙において開催、多数のご応募をいただきました。ご応募いただいたキャッチフレーズをいくつかご紹介します。

「マリンスニーカーSRV」
「そろそろマリンドライブへ」
「僕のフリッパー、SRV」
「SRVは遊びのパートナー、感動体験の旅に出かけよう」

このほかユニークなキャッチフレーズを多数お寄せいただいております。なお、審査は8月初旬に行い、入賞者の方には直接ご連絡があります。ご協力ありがとうございました。

AD情報

8月からはオーシャンライフ、KAZIの2誌に出稿の予定です。また、広告以外にも本格的なマリンシーズンを迎え、新聞社や出版社からの問い合わせも相変わらず多く、今後もさまざまなメディアでSRVが取り上げられそうです。ご期待ください。



●今回特集した平野ポートさんの「SRVクルージング」が、ヤマハ提供番組「ON & OFF」にて放映される予定です。東京地区は8月19日に放映の予定。一部地域では放映日が異なりますのでご注意ください(本誌15頁をご参照ください)。



仙台湾ではサバ、イナダ、メジなどのゲームが楽しめる。また、アイナメやメバルをソフトルアー(ワームなど)で釣るのも鈴木社長のおすすめだ



ライトローリング用にロッドホルダーとフィッシュオンが左右に。スズキはキャスティングばかりでなくトローリングもおもしろいという。これもオリジナルセットの一部

納艇済みのSRV。ステップラダー、風防。魚探はモノクロ液晶のもの。航海灯はオリジナル。



北浜マリンベース内はビッグゲーム用の機装を施したポートがずらり。唯一あった展示艇のSRVは現在、カーディーラーのショールーム(RVフェア)に出張中だとか

「釣り人口は確実に増加していますからね。若い人たちはおしよれな釣りをしますし、SRVはうってつけです」
確かに釣り需要は圧倒的だが、SRVの投入により、これまでのポートフィッシングとは一線を画した、新たなフィッシング需要層を引きつけているといったらよいだろう。
「テレビコマーシャルの効果もこれからはますます現れてくるでしょう

ね。また、夏ハゼが湾内で釣れるようになると、SRVの独壇場ですね。家族でポートを楽しむシーンを多くの人が目にする事によって、また売れるかも。これから暑さの残る9月ごろまでは、第2のピークを迎えますから、もう一押ししなくてはなりませんね」
同社では早くも9月にSRVの試乗会を企画し、新規需要の獲得に乗り出す構えだ。

浜

を訪ねて

北海道／奥尻島

奥尻郡奥尻町 深瀬鉄工

先代からのお客様本意の姿勢が 奥尻の復興を支える



昭和35年創業以来、奥尻島の漁業を支えてきた深瀬鉄工さん。深瀬弘文社長（50歳）は父正幸さんの仕事を継いで二代目となる。

深瀬鉄工さんはその名が示すとおり、鉄工関係の製造が主力だった。だが10年前、甥の数広さんの入社をきっかけに、鉄工関係を弘文社長、和船、船外機などの販売・修理を数広さんがそれぞれ担当することによって着実に業績を伸ばしてきた。

深瀬鉄工さんが扱うのはイカ漁の漁船の他、J-21、W-22、24を中心とした和船、25から50馬力の船外機だ。

「うちはね、島の漁師さんがお客様。奥尻漁協の約400名の組合員の7から8割が顧客」
2年前の1993年7月12日の北海道南西沖地震による奥尻島の被災は記憶に新しいところ、多くの漁師さんも深瀬鉄工さんも多大な被害を受けた。いまなお深い傷痕が島のあちらこちらに残っているが、道路や住宅、そして港湾などの整備が進められ、島は着々と復興に向かっていく。

深瀬鉄工さんの被災後の新社屋もこの6月30日ようやく完成した。鉄工業業のためにたっぷりとしたスペースには、製作機器が並び、一画には船外機修理用のプールも掘られている。

奥には事務所兼休憩室、在庫用の倉庫があつて全68坪という規模だ。

奥尻島ではいま6月1日から操業が開始された、イカ漁が好漁だ。島でイカ漁を営むのは約30隻。漁が始まる前の5月が、エンジンなどのメンテナンスで1年のうちで一番

深瀬鉄工

- 創業…昭和35年
- 従業員…3名
- 主力商品…漁船・和船・船外機・マリンディーゼルエンジン

「販売金額ではやはり漁船が1番。でもウニ、アワビ、ワカメ、ツブ貝といった磯漁に活躍する和船、船外機の売り上げも大きい」と深瀬社長。7月13日、被災2周年を迎えた翌日、深瀬鉄工のお客様の一人、松谷肇さんにツブ貝の漁に同行させていただいた。だが、濃霧による視界不良のため休漁となってしまった。

午前3時30分。建てなおされた燈台の光が霧の深さを際立たせる。

ツブ貝の漁はカゴ漁で、カゴにホッケを仕掛けておく。青苗漁港からほんの5、6分も走ったところが漁場だ。松谷さんの船はW-24、50馬力と15馬力の船外機を付けている。漁場までは50馬力で、漁場に到着して作業をするときには15馬力を使う。15馬力は低速で、潮や風に流されないようにするために用いる。

「エンジンの故障はまず無い。ちょっと昔は多少のトラブルがあったけれどね。それに、船はやっぱりヤマハじゃなければ駄目だ。他の船に乗ってみればそれが分かるさ」とは松谷さんのうれしいお言葉。こうした評価も、深瀬鉄工さんのきめ細かいサービス対応があってこそなのだ。



「やっぱりヤマハ」と松谷さん



家族総出でイカ漁の準備をする光景にも活気が感じられる青苗漁港

青苗漁港前に建つ深瀬鉄工さんの新社屋



68坪のひろびろとした作業スペース。採光も十分だ

奥尻生まれの奥尻育ち。経理担当の奥さまのトミエさんとともに島の漁業を支える。夕方ともなると2人、3人と漁師さんや水産関係の方々が集まり、時にバーベキューが始まるという



ずらりと並んだ和船は8月1日からのウニ漁に備える。補助対象の文字が被災を思い出させる

「これからはプレジャーボートも」とファイトいっぱいの数広さん

「早く数広にあとを任せて、女房と食堂でもやって、のんびりくらしたいね」そう言いながらタバコをくわえ、笑顔で仕事に戻る深瀬社長。奥尻の復興を支える気概とプライドが感じられた。ガンバレ奥尻、深瀬鉄工。

多忙な時期になる。「このイカ漁は夜の漁で、夕方の6時ごろに出漁して朝に戻ってきます。イカ漁でも何でも、漁は待ったなし。だから、うちも仕事ができたらいち早くやる。父の代からお客様を大事にする、夜中でも、日曜日でもやる。そうした対応が信用になっているんでしょか」10トンの漁船に付けるリーダーマストを製作しながら深瀬社長が話してくれた。

奥尻島ではイカ漁のほか、ウニ、アワビ、ワカメ、タコなどの漁が営まれている。アワビ漁は禁漁が決まっているが、8月1日からは被災後初めて、2年ぶりのウニ漁が開始される。

「うちはもちろん漁師さんが中心の商売。でもそろそろレジャー関係にも手を広げてもいいころでしょう」と数広さんが抱負を語る。小樽や函館方面から奥尻島にクルージングにくるボート、ヨットも少なくない。

「プレジャーボートは徐々に浸透してくると思う。そうは言っても島では船を使って遊ぶことにはまだ違和感があるのも確か。FW、UFシリーズを中心に、ボートフィッシングで売り込みたいと思っています」

業務市場からレジャー市場に、いつその拡大を図ろうとする数広さん。

「機械をいじっていい。それが趣味みたいなものですから」忙しさを気にとめない様子だ。

マリンスービスマンにとつて、 工夫する面白さは大きな魅力。 お客様との会話も大切にしています。

当世サービスマン 人物図鑑



徳島県小松島市 小松島マリナー

藤田 守さん(34)

機装する面白さは 自動車にはない魅力

讃岐山脈と剣山地の間を滔々と流れる吉野川。何本もの支流が入り込む河口から外に出て、紀伊水道に面した沿岸一帯を指すと、そこには釣りやクルージングに恰好のゲレンデが用意されている。

昭和45年に創業した小松島マリナーは、吉野川河口から数マイルほど南下した小松

島港に隣接する、徳島県下屈指のプレジャーボートの老舗。現在、自社マリナーの他にも徳島市内に出張営業所を設け、ケンチヨピアと呼ばれる吉野川沿いの公営ハーバーなどに係留される数多くのプレジャーボートのメンテナンスも手がけている。「業種がめずらしかったので入社試験を受けてみたんです。自動車関係に就職するのが一般的でしたからね」

藤田さんは、工業高校を卒業と同時に同

マリナーに就職。以来、16年にわたってサービスマン業務一筋に活躍してきた。「入社当時のマリナー規模は、いまの3分の1ほど。ちょうどマリネレジャーが盛んになりはじめるときだったので、よい時期に入社できたと思います」

そうは言うものの、マリンエンジンなどは学校で教わった覚えなどない。いきなり現場に投入された藤田さんは、試行錯誤を繰り返すことで一人前に育っていった。

「知らなかったことで、かえって興味が沸きました。特に、裸の艇体に機装を整えていく作業など、自動車のサービスマンにはない面白さです。工夫する面白さは自動車にはない大きな魅力です。自分が手がけたボートを、出張先などで係留されているのを見かけるとうれいものです。自動車だと納車した後で見かけることなどありませんね」

修理中でもお客さまと 会話を心がける

小松島マリナーのサービスマンスタッフは現在4人。何も知らずに入社した藤田さんだ

ったが、いまでは職場一のキャリアを誇る実質的な現場責任者として信望を集めている。

そんな藤田さんに、この16年間で経験した最大の失敗談をうかがった。

「入社まもない頃、船外機の2基掛け仕様の機装を終えて試運転に出たところ、追加装備した新品の船外機をチルトアップしようとして、うっかり海に落としてしまったことがありました。2基掛けだったので帰港できて幸いでした(笑)」

そのオーナーは、いまでも会うたびにこのエピソードを話題に出して藤田さんをかからうそうだが、とても悪意にしていただいていう。失敗を通じて、お得意さまを作っている様子がうかがえる。

「本来、話好きなどころもありますが、修理中でもその場にオーナーがいたら、会話を怠りません。黙って待たせるのも気が引けるし、だいたい修理の様子を見ているオーナーさんは、それなりにメカに興味があるんです。だから、エンジンや部品の話をすると、皆さんよく聞いてくれます。人によっては、かなり突っ込んだ質問をすることもありますが、そんなときはどうせ分からないだろうと勘繰らないで率直に教えてあげた方がよいと思います。その上で、バッテリーを長持ちさせるコツなど、日常できるメンテナンスのヒントを与える」と喜んでくれます。

ただし、話し過ぎると肝心の作業が進まなくなってしまう。そのため、こちらから難しい話を切り出すことは避けるようにして、メカの話から質問が出たら答えるようにしています」

藤田さんは、会話を通じて自然な形で安

小松島マリーナは今年で創業25年。現在、小松島市に本社を構える他、徳島市内に出張営業所を設けている



常時100艇を超えるボート、ヨットが管理されている小松島マリーナ。シーズンには毎日20艇近くの稼働率でにぎわう



今年の目玉商品SRVの構築に取りかかるサービススタッフ。新艇の出足は関東に比べてやや遅い傾向にあるというが、すでに3艇を進水させている



地元の大学ヨット部から依頼のあったレース艇の修理に勤む藤田さん。ワイドな守備範囲でお客様に responding している



サービススタッフが全員集合。統括責任者の鈴木専務（前列左・右は藤田さん）を中心に現在、マリーナには6名のスタッフが働いている



ちょっとボートを走らせれば紀伊水道で大物が狙えるマリーナだけに、ビルフィッシュユトーナメントなどで積極的にトロリングに挑戦している

全思想やメンテナンスの方法を伝えることが大切だという。実際、こうした努力のおかげで、これまでお客様に泣かされたことはないという。

「海へ出て、山にも行くんかい」

「私たちの仕事は、エンジンルームなど狭い場所にもぐり込んでする作業が多く、しかも腕など上半身ばかり使って下半身はあまり運動しません。だから、腰を悪くしてしまいがちです。私も、ずっとスポーツをしていなかったため、身体が固くなって腰を傷めました。30歳を起したら体がちがってきますよ（笑）。

最近、ゴルフをやりはじめたら体の調子がよくなりました。下半身が適当にほぐれますし、何よりストレスが発散できますよね。お客さまから、海へ出て山にも行くんかい」と冗談を言われています」

藤田さんの休日は毎週火曜日。平日ならゴルフ場は空いているし料金も安いから、うってつけだという。舗装面が多いマリーナで働く人は、知らずのうちに腰を傷めていることが少なくない。気になる人は、藤田さんのようにゴルフや山歩きをはじめたらいいかだろうか。

PRODUCTS

時代をさきどるヤマハの高性能エンジン

テクノロジを集結 『V4・V6シリーズ』

数多いヤマハ船外機の中でも、高馬力エンジンとして優れた威力を発揮しているのが、V型エンジンシリーズです。

時代の先端をいくしなやかなフォルムに、ヤマハの最新テクノロジを随所に搭載。V6・250馬力を筆頭に7モデルをご用意しています。

【主な特徴】

- ▼ヤマハ独自の高品質防錆技術を採用。
- ▼低速から高速にまで、高出力な充電能力をもつ発電装置を装備。
- ▼76°に配置したシリンダーは、吸気効率が高く、コンパクトとハイパワーを両立。
- ▼スターターモーター専用と、アクセサリー専用（メーター等）に使い分ける2つのバッテリー。



機能	250馬力/V4・V6(V型エンジンシリーズ)						
	250	225	200	175	150	140	115
モデル名	AETO	DETO	FETO	DETO	FETO	CETO	CETO
トリム&チルト方式	●	●	●	●	●	●	●
電動スタータ	●	●	●	●	●	●	●
エンジンストップスイッチ	●	●	●	●	●	●	●
発電装置(アンペア)	35	25	25	25	25	20	20
レクチファイア(レギュレーター機能付)	●	●	●	●	●	●	●
スタータ安全装置	●	●	●	●	●	●	●
オーバーヒート警告装置	●	●	●	●	●	●	●
過回転防止装置	●	●	●	●	●	●	●

●：標準装備

6気筒直噴ディーゼル 『MD630KH/3800』

「小型・軽量・高出力」の思想、さらに船の性能をいかに引き出すことができるか。ヤマハは、マリンドイーズルエンジンを常に研究・開発し続けています。

『MD630KH』は、トータルな船づくりから生まれた理想的なディーゼルエンジンと言えます。

【主な特徴】

- ▼水冷式ターボチャージャーとインタークーラーを装着。低速域から高速域まで、すべてのレンジで高効率・高過給化を実現。
- ▼リエントラントタイプの直噴式燃焼室、6噴孔式ノズル、大型の噴

GOODS

愛艇のお手入れに便利なグッズ

『ジェットクリーナー』

船のメンテナンス用品のひとつとして、洗浄に便利な『ジェットクリーナー』をご紹介します。1台で幅広い洗浄作業が可能。キャスタ付き・なしと2タイプあります。

【主な特徴】

- ▼直射と扇形噴射の切替が簡単にでき、使いやすいガンタイプのノズル付。
- ▼機械的な接触がないので洗浄面を傷つける心配がありません。
- ▼高圧で節水タイプなので地面をず

射ポンプなどの燃焼効率を高めるシステム。
▼コンパクトなボディながら、法70馬力クラス余裕のハイパワー。



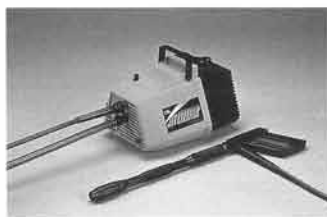
(漁船用工業用ギア機対応仕様)

■MD630KH仕様諸元

機関名称	N30
形式	水冷4サイクル立型ディーゼル
漁船法馬力	70
シリンダー(数-配列)	6-直列
シリンダー(内径×行程)(mm)	105.8×118
排気量(cc)	6,224
連続定格出力(JIS馬力)(ps/rpm)	345/2,900
最大出力(マリギヤ端出力)(ps/rpm)	380/3,000
燃焼室形式	直接噴射式
使用燃料	軽油またはA重油
全長×全幅×全高(mm)	1,574×891×967
乾燥重量(マリギヤ含む)(kg)	890

仕様	キャスターなし		キャスター付き	
	JC-2	HP-1		
艇種				
噴射時圧力	60kgf/cm ²			
噴射時水翼	7ℓ/min			
電源	家庭用AC100V			
定格消費電力	1.4KW			
定格電流	13A			
製品重量	16kg(本体のみ)		17kg(本体のみ)	
製品寸法(長さ×幅×高さ)	250×370×230%		720×300×330%	

標準付属品：ノズルガン一式、高圧用ホース8m、吸入カップリングセット(フィルター付)、ホースバンド2ヶ



▲キャスターなし
¥60,000(No.90794-77151)



▶キャスター付き
¥70,000(No.90794-77152)

ラジコンヨットシリーズ 『ヤマハ40EX』

ヤマハの最高級クルーザーヨット『40EX』。その1/20スケールのプラモデルが7月より発売開始されました。豪華なマリンスライフの魅力を実感と操縦の奥深さまで伝えます。

2ch2サーボプロポで軽やかにセーリング。RCカー用プロポでもOKです(別売)。

¥24,000
(No.90794-58503)
※別売RCカー用プロポ/¥14,600
(No.90794-59504)



『ヤマハ・ラウンドザ・ワールド』

昨年の「ホイットブレッド世界一周レース」で見事優勝を成し遂げたヤマハ号。そのチャレンジスピリットが伝わってくるプラモデルです。キットは専用RC装置つきと、船体キットの2種類。別売で操船作業をする5人のヨットクルーセットがあり、優美でたくましい姿をディスプレイモデルとして楽しむことができます。

- 専用RC装置つき/¥58,000 (No.90794-58505)
- 船体キット/¥44,000 (No.90794-58506)
- ※別売ヨットクルーセット/¥1,200 (No.90794-58507)



お問い合わせ先/マリン用品営業課

『子どもたちの目』に映る日本の海
『浜の風景画コンテスト』作品大募集！



●昨年の金賞作品より
小学生低学年の部・香川恵さん(徳島市/北井上小学校)

海辺の景色、海で働く人、海で遊んでいる様子…、子どもたちが描き出す絵はとても新鮮で、感じのままの風景をのびのびと表現します。

※詳しくは本誌はさみ込みのチラシをご覧ください。

概要
●第7回ヤマハ全国児童 浜の風景画コンテスト
【応募期間】95年7月1日(土)～10月31日(火)
【応募資格】小学生以下の児童・幼児
【応募方法】A3サイズ以上の画用紙、油絵の場合キャンバスを使用
【応募宛先】〒435 静岡県浜松市篠ヶ瀬町810 ヤマハ「浜の風景画コンテスト」事務局

ヤマハは今年も、そんな子どもたちの元気あふれる絵を全国的に募集しています。おかげさまで昨年は4000点以上の作品が寄せられ、内容もますます充実してきました。今年はどうな作品に出会えるのかから楽しみです。お客様にもぜひご紹介ください。

ヤマハマリンアカデミー

第10期('95年9月まで)の開講スケジュール

マリンのプロフェッショナル育成を目的とした『ヤマハマリンアカデミー』は、皆様のスキルアップ・スキルチェックの場として、多くの方にご活用いただいております。今期も残すところ2講座となりましたが、積極的にご参加ください。

■お問い合わせは、担当販売会社まで。また、6名以上でのお申し込みは、スケジュール等ご相談に応じます。

講座名	日程
エンジン講座Ⅰ	※第10期は終了しました。 第11期の講座は10月以降に行います。
エンジン講座Ⅱ	
航海講座Ⅰ	9/27～29
航海講座Ⅱ	
ヨット講座Ⅱ	8/2～3,8/30～31,9/19～20
スポーツフィッシング講座	

●第11期通信講座NAVI

講座名	受講期間	レポート提出	講座内容
航海	11月	～12/10	沿岸航法/航海計器/潮汐
運用	12月	～1/10	用器/錨/操船/海難/気象
法規	1月	～2/10	海上衝突予防法/海上交通安全法/港則方

※終了認定スクーリングを講座終了後3ヶ月以内に実施する予定。

募集対象者…マリンプラザ、マリンショップ、サービスショップ、サービス指定店、ヤマハ販売会社のマリン営業マン、マリンサービスマン及びマリンパーズマン

開催場所…●ヤマハ発動機株式会社・研修会館
静岡県磐田市新貝2500 ☎(0538) 35-9711
●ヤマハマリーナ浜名湖
静岡県湖西市入出字長者1380
☎(053) 578-0713

問い合わせ…●マリンアカデミー事務局
☎(053) 594-6518

マリンアカデミー修了者(敬省略・順不同)

●第10期

▶エンジン講座Ⅱ

堀越宣秀(神戸店)、小川昭(神戸店)、三井圭司(ダイイチ)、舟戸浩紀(㈱ダイイチ)、高橋満(㈱A & C マリンバル)

▶航海講座Ⅰ

清水学(岡崎店)、中村貴雄(北陸店)、藤田忠久(本社)、武藤吉宣(㈱ダイイチ)

▶エンジン講座Ⅰ

藤田忠久(本社)、高橋満(㈱A & C マリンバル)、平林優一(㈱マリンオート 諏訪)、宇田喜之(㈱ダイイチ)、大向啓之(伊豆松崎マリーナ)、福島昭徳(㈱サンヨー)、西山和伯(㈱豊鳴商会)、西沢武(㈱太平洋マリン)、吉川和宏(㈱カナサシマリンセンター)

YAMAHA ON and OFF

マリン、そして、モーターサイクルの世界が生まれ出すドラマを、ヤマハならではの感覚でとらえたテレビ番組ON and OFF。今年も海の魅力、陸の魅力を、大いに満喫する人々の姿を通して、余すところなくお伝えしていきます。ご期待ください。

■テレビ北海道 土/18:30～18:45	■テレビ大阪 土/18:30～18:45
■山形放送 金/25:10～25:25	■びわ湖放送 金/22:30～22:45
■テレビ東京 土/18:30～18:45	■奈良テレビ 土/22:15～22:30
■テレビ信州 金/25:10～25:25	■テレビ和歌山 土/18:30～18:45
■静岡放送 日/24:40～24:55	■テレビせとうち 土/18:30～18:45
■テレビ愛知 土/18:30～18:45	■伊予テレビ 土/11:30～11:45
■三重テレビ 金/18:15～18:30	■T.X.N.九州 土/18:30～18:45

◆イベントカレンダー◆8月～10月

CRUISER

開催日	イベント名	開催場所
8月20日(日)	第6回小樽カップヨットレース	石狩湾
8月26日(土)～27日(日)	エンルムカップ津軽海峡ヨットレース	青森～室蘭
8月26日(土)～27日(日)	ヤマハマリンフェスティバル大阪湾大会	サントピアマリーナ
9月3日(日)	第23回祝津マリーナカップヨットレース	小樽市祝津
9月3日(日)	サウスカップ	淡輪ヨットハーバー
9月9日(土)～10日(日)	ヤマハシーズンカップシリーズAutumn	名鉄西浦マリーナ
9月15日(金)～17日(日)	ヘインズカップ	琵琶湖
9月16日(土)～17日(日)	第8回小樽・岩内オーシャンカップヨットレース	岩内～小樽
10月7日(土)～10日(火)	ミント全日本選手権大会	
10月15日(日)	スーパーウェイブカップ第2戦	夢の島
10月22日(日)	ピワコカップシリーズ'95 第4戦	ヤマハマリーナ琵琶湖
10月22日(日)	ヤマハクルーザーフェスティバル琵琶湖大会	ヤマハマリーナ琵琶湖
10月29日(日)	ヤマハシーズンカップシリーズWinter	名鉄西浦マリーナ

DINGHY

8月5日(土)～6日(日)	第20回全九州ヤマハディンギージャンボリー	小戸ヨットハーバー
8月5日(土)～6日(日)	YSA 東北支部選手権大会(ディンギージャンボリー)	松島湾
8月5日(土)～6日(日)	YSA 四国支部選手権大会	JOB 志度マリーナ
8月20日(日)	YSA 北海道シリーズ戦 '95第4戦	阿寒湖
8月26日(土)～27日(日)	YSA 全道選手権大会'95 (一般・ジュニア)	エンルムマリーナ室蘭
9月3日(日)	YSA 関東支部選手権大会北関東大会	館山
9月17日(日)	YSA 中部支部選手権大会	寸座マリーナ
9月23日(土)～24日(日)	YSA オール関東選手権大会	鎌倉

PERSONAL WATER CRAFT

8月5日(土)～6日(日)	MJジャンボリー-in IWANAI	岩内
8月6日(日)	MJジャンボリー-in 飛騨金山	金山湖
8月26日(土)～27日(日)	MJジャンボリー-徳島大会	徳島県
8月27日(日)	MJジャンボリー-in 瀬戸田	瀬戸田
9月2日(土)～3日(日)	MJジャンボリー-九州大会	福岡県
9月17日(日)	MJジャンボリー	猪苗代湖
9月23日(土)～24日(日)	MJジャンボリー-全国大会	琵琶湖

BOAT FISHING

8月25日(金)～27日(日)	ヤマハフィッシングキャンプ	山口見島沖
8月26日(土)～27日(日)	ヤマハマリンフェスティバル大阪湾大会	サントピアマリーナ
9月1日(金)～3日(日)	遠州灘ビルフィッシュトーナメント	浜名湖
9月10日(日)	ヤマハビッグファイトトーナメント第2戦	伊豆大島近海
10月22日(日)	ライトタックルコンテスト	三崎



ビルフィッシュシーズン開幕『八重山ビルフィッシュ射撃大会』

6月15日(17日) (競技は2日間)、『八重山ビルフィッシュ射撃大会』が開催され、全国より14チームが参加しました。

大会初日は、小雨が降っていたものの波は穏やかで、潮が上げに変わった11時頃、カジキが立て続けに3本ヒット。周囲の期待を集めたのが、ランディングされたのはバシヨウカジキ1本でした。

2日目は、梅雨明けを知らせる夏至南風(カーチバイ)が吹き始め、波のうねりが強く、各チーム健闘しましたが、前日の釣果を超えることはできませんでした。中には、本マダラ(?)クラスのモンスターなのか、80ポンド、50ポンドクラスラインが3回続けて切られ、悔しい思いをするというチームもありました。

- 個人部
優勝/千々と岳宏(ソルトウォーターハウス)・53.2kg
- 団体の部
ソルトウォーターハウス・53.5ポイント
- タグ&リリースの部(チーム表彰)
サンチャゴ・42ポイント(シイラ、キハダ)
- 船長賞
大城兼一船長(ゆたか9号)

参加チーム募集中!!
伊豆近海でマリンに挑む『95ビッグファイターメント第2戦』

ヤマハ東京が主催し、毎年数多くのチームが参加、ご好評をいただいている『ビッグファイターメント』。第1戦はあいにくの悪天候で中止となりました。第2戦は9月10日の開催予定です。お客様をお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

【日程】9月10日(日)
【スタート】10日の出
【参加費】5000円
【参加資格】25フィート以上のヤマハボートで2級免許所持者が乗船していること。
【申し込み締め切り】9月2日(土)
【お問い合わせ先】ヤマハ東京株

優良中古艇販売の新概念『ワイズマリン』
コンピュータによるネットワークで
全国規模の登録、検索が可能に



ヤマハでは年々拡大する中古艇市場の健全な発展に寄与することをめざし、中古艇事業の専門会社・ワイズマリンを設立、去る4月1日より営業を開始しております。この新会社は、全国規模での情報と流通の一元化を図り、お客様から信頼いただけるシステムでの中古艇の売買を行うことを目的としています。

また、ワイズマリンでは、全国の販売網をパソコン通信によるネットワークで結び、末端から簡単にアクセス、お客様の希望に合った中古艇の最新情報を検索することができま。さらに販売店の皆様をお持ちの売りたい情報を登録することも可能です。

パソコン通信による中古艇情報システム
ワイズマリン・ネットの特徴

- お探しの艇種、商品を最新全国情報の中から瞬時に選択できます。
- 検索の方法は艇種だけに限らず、金額やメーカー、年式などパソコンならではのさまざまな方法で簡単に検索でき、欲しい情報がすぐに見つけられます。
- 自店の売りたい情報も全国に発信できます。
- 自店をお持ちの情報を登録すれば、翌日には全国の通信ネットにオンライン。
- 画面では艇の写真画像表示やそのプリント出力も可能。商談を強力にサポートします。
- 各種のデータはすべてプリント出力

が可能です。

もちろん艇の写真も入っていますから、お客様にお渡しすることができ

■操作はいたって簡単、どなたでもすぐに扱うことができます。

キーボード操作は必要ありません。



写真はプリンターを含めた標準的なワイズマリンネットパソコンセットです。

画面の指示にしたがってタッチボタンを画面上でクリックするだけで、必要な情報に出会えます。

■顧客管理等のソフトを利用すれば、お店の面倒な事務処理を省くこともできます。

すでにパソコンを導入されていれば、そのまま中古艇情報を得ることができ。ただし、パソコンの機能・メモリーの容量等により、ご利用できない場合がありますので、詳しくは担当者までご相談ください。

●ただ今、ワイズマリンでは加盟店を募集しております。詳しくはワイズマリン本店または横浜、名古屋、大阪の各店までお問い合わせください。

株式会社ワイズマリン
本店/大阪府吹田市南金田 1丁目14番13号
☎06(386)8387

横浜店/☎045(505)6911
名古屋店/☎052(835)3301
大阪店/☎06(386)8186



「大漁カレンダー」
●タテ51.5×ヨコ36.4cm



「WIND&WAVE」
●タテ36.4×ヨコ51.5cm



「Sea Spray」
●タテ51.5×ヨコ72.8cm

多機能ツールとして
ぜひお役立てください
『96マリンカレンダー』

ヤマハは、今年もマリンカレンダーを3アイテムをご用意。すでに皆様からたくさんご予約をいただきました。

ニューモデルのアップローツールとして、オフシーズンのコミュニケーション・市場開拓ツールとして、さまざまな場面でご利用いただけると思います。ご商売に有効にご利用ください。

INFORMATION

さあ、八重山、そしてグアムをめざして！

釣果を手に記念撮影



団長として参加された平野ポート・柳田部長に見事なシロダイヒット



ぜひ、皆様のお客様をグアムへ！来年こそ、ビッグマーリンが……

小型ながらカジキを釣り上げた参加者の松本さん



昨年のポートフィッシングコンテスト入賞者がビッグフィッシングにチャレンジ！

昨年に全国各地で行われたヤマハポートフィッシングコンテストの入賞者の中から抽選で選ばれた方々が、このほど、八重山、グアムへのフィッシングツアーに招待されました。八重山諸島に浮かぶリゾートへはいむるぶしで大物釣りにチャレンジするビッグフィッシングツアーは今年で17回目。5月25日から28日にかけて、14名の方々が参加され、シロダイを始めフエキダイなどの釣りを楽しめました。また、釣りはかりでなく八重山の観光も堪能され、南国での休日をも有意義に過ごされました。

グアムでは残念ながらビッグフィッシュはなしそれでも参加者は……

一方、グアムビルフィッシングツアーは今回が初めての試み。こちらのツアーには全国各地で開催されたビルフィッシュトーナメントの入賞者の中から抽選で選ばれた4組8名の方々が参加。6月23日から26日までの3泊4日のスケジュールで、カジキを狙いました。

二組に分かれポートをチャーターし、魚影の濃いことで知られるグアムの海でカジキを追いましたが、巡り合わせが悪いのか、50kgサイズのブルーマーリンが1本上がったのみ（もちろんタグ&リリース）。残念な結果に終わったものの、「来年も入賞してぜひチャレンジしたい」と逆に

参加者たちの意欲をかき立てたようでした。

ただ今ポートフィッシングコンテスト開催中

さて、ヤマハポートフィッシングコンテストはもちろん今年も開催中。すでに多くの販売店様やマーリーナで実施のご報告をいただいております。期間は11月末日まで。是非とも積極的に開催され、お客様を、八重山の、そしてグアムの海へお連れください。

概要

【開催期間】平成7年4月1日～11月30日

【参加資格】ポートフィッシングが可能な小学生以上の人（漁業従事者を除く）

【競技種目】

●ビルフィッシングの部

●ファミリーフィッシングの部

1 指名魚大物（長さ・重量）の部

2 指名魚重量の部

【全国統一賞品】

●ビルフィッシングの部

大会優勝者の中から抽選でペア5組10名様をグアムフィッシングツアーにご招待

●ファミリーフィッシングの部

地区大会入賞者の中から抽選で20名様をヤマハリゾートはいむるぶしツアーにご招待

●大物賞

全国各地からお寄せいただいた釣魚によって競います。

■お問い合わせ先/ヤマハ各販売会社



9月の全国大会へ向け各地でMJイベント花盛り

マリッジエットクラブでは、今年もイベント活動を積極的に展開中。各地からレース結果を初めとするホットな情報が集まってきています。

9月の全国大会に向け、腕を、技を、チームワークを磨いているようです。

また、5月28日に行われたMJジャンボリー富津大会から、新たにスラローム競技をスタートさせました。ルールとマナーの徹底と同時に、ライターの技術の向上を目指しました。



MJジャンボリー富津大会/新しく加わったスラローム競技

『トランス・アガラス・レース』究極のサポート

南アフリカは世界に冠たるインフラブル・ポート・レースの先鋭国。なかでも『トランス・アガラス・チャレンジ』はその過酷さで人気の高いレースとして定着しています。このレースは南アフリカ南端部の沖合750kmを5日間、6ステージにわけて競うもので、参加者たちはインド洋と大西洋が出会う海域を含む極めて荒いセクションで争わなければならない。クラスは30、50、70馬力の3つに分かれていますが、あまりに過酷なため船外機の人生の一生分以上この5日間で酷使されると言われているほどです。



トランス・アガラスではヤマハ船外機の人気はダントツです。昨年12月に行われた94年大会では、出場60艇のうちヤマハを搭載したのは58艇。2年前までは、ヤマハ以外のブランドではどの船もレースを完走することができなかったそうです。

この地域最大のヤマハの船外機販売店「ハイネマン・ヤマハ・マリナー」は1988年の第1回大会以来、ずっとこのレースをサポートしてまいりました。ハイネマンはレース期間中、おびただしい数の船外機を修理し、自店のお客様や他の出場者のために24時間体制でスタッフやワークショップを配置。さらに特別仕立のサービストラックとメカニックにレースをフォローさせ、緊急の場合には特別値段でサポートを提供しています。このようなサポート活動がハイネマンの人気と信用を不動のものにしています。

WORLD TOPICS



クラブハウス内はスポーツフィッシング色という雰囲気。今年から販売店として営業を開始、SRVのパナーが目玉を引く

事務所に置かれていたスタッフたちのロッドとタックルボックス。浅見さんは当初ラバラのルアーにこだわり、使い続けていたが、今ではソフトルアーから、ジグまでなんでも使いこなしている



「マリナーを開業したばかりの頃、お客さんが帰港してくる度に楽しそうに釣りの話をされるんですが、よくわからずに話についていけなかったんです。それじゃあいけないと思いき、釣りを始めました。」

「どうせやるなら他の人とは違う、スポーツ性があるって、かっこいい釣りをしよう。ちょうどそのころ服部名人の釣り講習会をうちで開いたのですが、終わった後に服部さんに話をしてもらいました。」

「本を読んだり、日記を付けたりと研究に研究を重ねてね。仕事が始まる前の早朝と、終わった後の夕方に、毎日のように釣りに行っていました。」

「ほんとはもっと細いラインでもいいんですが、最近では老眼鏡をかけないとラインが見えないんですよ（笑い）。若いスタッフは6ポンドや4ポンド、2ポンドのラインで楽しんで

半信半疑で見ていたお客様も実際に釣ってみせれば……



ニューポート江戸川の浅見代表

東京都を流れる江戸川の河口付近にニューポート江戸川はある。造船業の新規事業としてマリナーをオープンしたのは15年前。そしてその5年後、会員制のマリンクラブを開始、この10年の間、着々と会員数を増やしてきた。お客様を遊ばせる、楽しませることにかけては、多くのノウハウをお持ちだ。今回は、そのニューポート江戸川

のメンバーが目の色を変えて楽しんでいるというルアーフィッシングについて、同社の浅見守男代表に伺った。ヤマハボートの取扱店としての歴史は今年からという若いお店だが、「情報提供」や「ソフトの提供」という面では大いに参考になるだろう。

自分でやってみて、ルアーフィッシングは最高におもしろかった。

今ではほとんどのメンバーがスズキ釣りを楽しんでいます。

話を聞いてスズキのルアーフィッシングを始めたんです」（浅見代表）

なんとルアーにスズキがヒットし始め、60〜70センチのスズキを持ち帰るようになる

の影響でタグ&リリースプログラムに積極的に取り組むようになりました。お客様にも勧めます。食べられる分だけ持ち帰って、後は標識を付けて放流する。いつまでも釣りのできる東京湾であってほしいから」という考えだ。

「ニューポート」の音が聞かれるほど同社のノウハウは豊富。釣り雑誌の企画でも同社はたびたび登場している。しかし、浅見さんがスズキ釣りを始めたばかりの頃は全く釣れなかったそうだ。

浅見さんのスズキ釣りは、JGFAに入会してからさらに昇華していった。「下田のカジキ釣り大会に参加する目的で入会したんですが、今の事務局長・若林努さん

の影でタグ&リリースプログラムに積極的に取り組むようになりました。お客様にも勧めます。食べられる分だけ持ち帰って、後は標識を付けて放流する。いつまでも釣りのできる東京湾であってほしいから」という考えだ。

クラブハウス内に飾られていたスズキとフウライカジキの
 刺製は、ともにJGFAの日本記録。スズキは8lbテストラ
 インで6.31kg



**ルアーフィッシングは
 ファッションではない**

餌を使わず、なるべく細いラインでの釣り。というところ、なんだか自然保護者の物言いだが、浅見さんはこのスタイルの釣りの方が「純粹におもしろいのだ」と断言する。

「まず、アタリが餌釣りとは明らかに違う。ガツンノ／ときて、それから猛然としたフアイトがすぐに始まる。細いラインを使うからドラグはゆるめ。そこへ大物が来るとリールが音を立ててラインを引いていく」

そのフアイトが何ともいえぬほど楽しいのだと浅見さんは説明する。

「今はフライフィッシングにも凝っている

のですが、これがまたおもしろい。おそらくヒットする確率はルアーの10分の1程でしょうが、かかればルアーの10倍楽しめると思いますよ」

**自ら楽しみ、経験を積み
 それをお客様に伝えてあげる**

「とにかく楽しませてあげること。メンバーが連れてきた方が、マリンの魅力にとりつかれ、新たに入会されることもしばしばです」

浅見さんは、自ら新しい遊びを切り開き、「経験」を積み重ね、それをお客様に伝えてあげる事が重要としている。これまでマリクラブの会員に対してそれを実践し、成功してきた。マリクラブの会員を、ポートオーナーに置き換えることもできるだろう。



ニューポート江戸川では50隻のオーナーボートを保管。ニューポートマリクラブとしてはヤマハモデルを中心に18隻のクラブ艇を所有。145名のメンバーがいる



同社が会員に配布している会報の「ブルーピーター」は情報が盛りだくさん。また「ニューポート釣り情報」はメンバーの釣果を日付、潮、魚種、匹数、ポイント、使用ルアー等細かいデータで紹介。データは会員が帰港する度に記入してもらう。1ヵ月に1回の発行。「大変な作業だが、掲載された会員さんも喜び、こうした情報提供こそがうちのセールスポイントですから」

同社では浅見さんだけでなく、社員全員がマリライフを大いに楽しんでいる。

「この前研修をかねた社員旅行で宮古島に行ってきたんですよ。ジャイアントトレバリーを釣ってきたんですよ。100グラムもあるルアーをとにかく速くに投げる釣りなんですけど、これが疲れるのなんの。二日目の夕方、疲れがピークに達したときやっとなりて。揚げるまでが大変でしたよ。でも11キロが揚がりまして」「先週の火曜日、房総沖でルアーでヒラマサが釣れるというので社員と船をチャーターして行って来ました。ジグを使って釣るんですけどね。若い者がみんな釣るのに、どういふ訳か私のにだけこなかったんですよ。でもあれは楽しいよ」「6、7年前から相模湾でシイラを釣っています。当時はやる人が

少なくて7、8人で行って100本も揚げたときもありました。ポイントにルアーを投げて、8、12キロのシイラを12ポンドのラインで釣るんですけど、おもしろいんですよ、これでも最近はおもしろい釣れなくなってきたなあ」

こうした話題が浅見さんといるとつきないのだ。お客様にしたらさぞかし楽しいし、夢をかき立てられることだろう。

なお、ニューポートマリクラブではスズキ釣りの他に、カジキ釣り、潮干狩りからクルージング、花火大会などイベントメニューが盛りだくさん。シーバスターナメントは昨年、2回目が開催され、30名のメンバーが参加したという。また遊びのイベントばかりでなく、安全講習会なども開催している。



「ガツンノ」というアタリが最高というスズキ。浅見さんはほとんどのスズキにタグをつけて海に返している



オールドミルウォーキーカップ 第8回 勝浦ビルフィッシュトーナメント

2日間で
日本のカジキが
ランディング

7月13日から15日までの3日間、和歌山県の紀伊勝浦港をベースに勝浦ビルフィッシュトーナメントが開催されました。今年で8回目を数えた今大会には、関西地方を中心に全国から12チームがエントリーし、2日間に渡って競技を繰り広げました。今回の釣果はカジキだけで8本(クロカワカジキ7本、マカジキ1本)。その数だけを見れば昨年、一昨年に次ぐ記録となり、検査場所を大いに沸かせました。優勝したのは80lbテストラインで152.1kgのクロカワカジキをランディングした(チーム現代)(岩本国志キャプテン)。また、50lbテストラインで95.1kgのクロカワカジキをあげた(チーム大和)(山本光浩キャプテン)が2位となりました。優勝した(チーム現代)は進水したばかりのヤマハカスタムボートでの参加でしたが、土佐のトーナメントに続いて、うれしい入賞となりました。